

# 領域 8 インフォーマルミーティング議事録

2018年9月11日 12:30-13:30 (B206 会場)

書記: 品岡寛 (学生優秀発表賞部分 星野晋太郎)

## 出席者

領域代表 (任期: 2018年4月-2019年3月)

吉村 一良 (京大理)

領域副代表 (任期: 2018年4月-2019年3月)

堀田貴嗣 (首都大理)

次期領域副代表 (任期: 2019年4月-2020年3月)

藤 秀樹 (神戸大)

次々期領域副代表 (任期: 2020年4月-2021年3月)

楠瀬 博明 (明治大)

運営委員 (任期: 2017/10 - 2018/9)

松岡英一 (神戸大理), 下志万貴博 (理研 CEMS), 星野晋太郎 (埼玉大), 品岡寛 (埼玉大)

領域運営委員 (任期: 2018/4-2019/3)

深澤英人 (千葉大理), 中島正道 (阪大理), 矢島健 (東大物性研) 山川洋一 (名大理), 川崎郁斗 (日本原子力研究開発機構)

次期領域運営委員 (任期: 2018/10-2019/9)

大川万里生 (東理大理), 辻直人 (理研)、越智正之 (阪大理)、志村恭通 (広島大先端物質科学)

[12:30 時点での参加者: 30 名程度]

## 議題

### 1. 2018 年秋季大会の総括

シンポジウムは1件

→詳細な報告内容は添付のスライド参照

## 2. 領域委員会（2018年5月）の報告

若手奨励賞2名を推薦した。

→その他の報告内容は添付のスライド参照

## 3. 次期領域運営委員の紹介（2018年10月—2019年9月）

<低温> 大川万里生（東理大理）、辻直人（理研）

<磁性> 越智正之（阪大理）、志村恭通（広大院先端物質）

## 4. 次次期領域運営委員の推薦および承認

<低温> 谷口 晴香 氏（岩手大学理工学部、実験）、長谷川 巧 氏（広大院総合、実験）、  
出村 郷志 氏（日大理工、実験）

<磁性> 三本 啓輔 氏（富山県立大学、理論）、横山 淳 氏（茨城大学、実験）  
拍手をもって全員承認された。

## 5. 学生優秀発表賞

指摘された点を微修正することを前提に、決定規則および実施要領が可決。決定規則は、  
10月の理事会へ提出予定

詳細は後ろのメモを参照

## 6. 次期領域副代表（藤先生 神戸大）、次次期領域副代表（楠瀬先生、明治大）の挨拶あり

### 学生優秀発表賞に関する議論について

申請書：

- 共同研究者の情報（所属など）も記述する。応募者の研究室スタッフの名前、職位、連絡先も記述する。
- 申請書の容量を2枚にするか1枚にするか。
  - 1枚、審査が楽、内容も書けるはず。
  - 2枚、背景を含めてわかりやすくかける。
  - 1枚でまずやってみる、その後、変更の余地はある。
  - 11ポイント以上のフォントを使うとの記述をする。

選考委員会：

領域代表、領域副代表、次期領域副代表を含む7名

柔軟性を持たせるために残り4名は代表が指名できるとした方が良い。

この4名は必ずしも運営委員である必要はない。

審査結果に基づいて選考するのであり、審査はしない。

等の意見が出たが、まずは4名は従来の方案通りで進めてみる。

審査員を座長に依頼すると、1件しか審査しないので、相対的な評価ができないという問題がある。

座長に審査員頼む際には考慮が必要だが、審査員を確保するという意味では頼みたいところ。

現状、審査員は4人としている。

3人を下限にすると、一人減っても座長に依頼せずとも対応可能。

実施要領では4名程度と書いておけばOK。

実施手順書では人数を決める。審査員が1, 2名になることは避ける。

本審査4名であったが、3名でも良いのではないか。

1名の審査員に3~4件くらい見ていただきたい。

その他

- 春学会では1回しか発表できないので、完結した研究である必要がある。最新の研究成果を発表できないのではないか。秋季大会にすればよいのではないかとの意見があったが、年次大会での開催は領域8で既に決まっている。
- 申込数が少ない場合は、受賞者ゼロということもありうる。
- 本審査の結果はメールで報告するということが確認された。

# 2018年秋季大会サマリー

講演数（招待講演、企画講演含む）

	口頭	ポスター	合計
低温	229	139	368
磁性	89	99	188
全体	318	238	556

(注)プログラム編時のデータ

cf. 第71回(東北学院)

476件

2016秋(金沢)

612件

第72回(大阪)

513件

2017秋(岩手)

512件

第73回(東京理科大)

442件

プログラム編成のながれ

1. 領域8主催シンポジウム一件。
2. 口頭発表
  - ・低温はパラレルセッションを避けられず。
  - ・磁性はパラレルセッションが二件。
  - ・講演内容ごとのまとまりを優先。セッション間での休憩時間の統一せず。

# 2018年秋季大会サマリー

プログラム編成のながれ

3. ポスター発表は磁性、低温あわせて3回分を要求  
→ 希望通りに3回分の割り当て。  
ポスター会場の収容人数の関係上、低温、磁性共に講演内容で二つに分け、1回分を低温・磁性の混合セッションとした。
4. 口頭発表のパラレルセッション及びポスター発表など、なるべく内容のオーバーラップがないように配慮。  
  
→ プログラム編成についてご意見があればお願いします。

# 2018年秋季大会サマリー

## 報告事項、注意点など

1. プログラム編成会議に4名出席  
→ 事前に9名の運営委員で編成を行い、大きな問題なく完了。
  2. 一件のシンポジウムが認められた。
  3. 他領域との合同セッション(主に低温) → 調整は円滑。特に問題なし。  
基本は、「～番目は領域～と合同」とプログラムに記載すればよい。以下は例外。
    - ・マルチフェロ: 春学会では領域3、秋学会では領域8で編成を担当する。  
今回は領域8が担当。
    - ・トポロジカル: 領域4、8、9で主領域を持ち回り。今回は合同希望なし。
    - ・電界効果: 今回は合同希望なし。
-